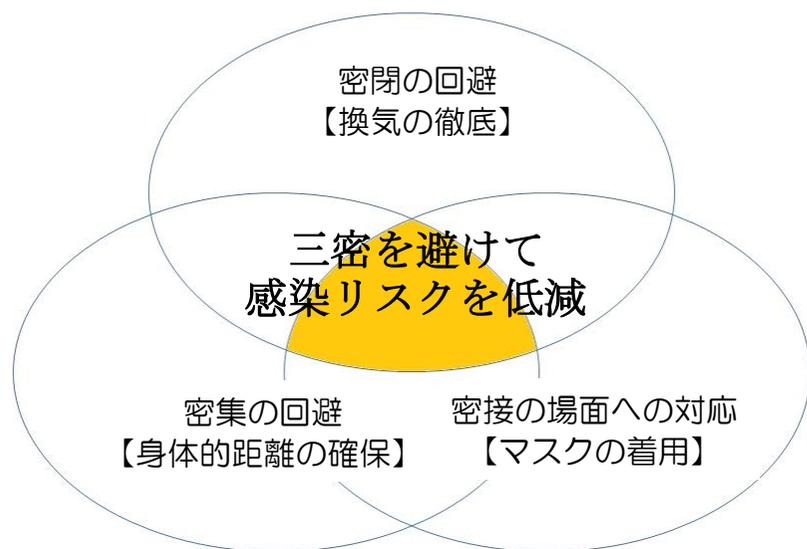


2. 学校における新型コロナウイルス感染症対応について

▼学校における基本的な感染症対策

登校まで	学校内	下校後
◇登校の制限 「風邪症状がある場合は静養」 ◇健康状態の把握	◇手洗い ◇咳エチケット ◇清掃・消毒	◇抵抗力を高める 「十分な睡眠」 「適度な運動」 「バランスの取れた食事」

▼集団感染のリスクへの対応



【換気の徹底】

- 北海道という地域上、常時換気することは困難。⇒こまめな換気の実施。
- 室温低下による健康被害への懸念。⇒重ね着・厚着の励行

【身体的距離の確保】

- 人との間隔は最低 1メートル（できるだけ2メートル）
- 教室内の座席の間隔。⇒席との間隔は前後左右 1 m
 ※1クラス 40人、縦横 8.3mの教室サイズの場合

【マスクの着用】

- 身体的距離が十分とれないときはマスクを着用します。
- [参考] フェイスシールド、マウスシールドはマスクに比べて効果が弱い
 ⇒顔の表情や口の動きを見せることが必要な場合にはフェイスシールド等
 を活用することも一つの方策だが、身体的距離を取りながら実施する。

●参考文献

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～（2020.12.3 Ver.5）
 文部科学省作成

▼具体的な活動場面ごとの感染予防対策

◇各教科について

可能な限り感染症対策を行った上で、リスクに応じて実施。

★感染リスクが高い学習活動

- ・各教科共通する活動「児童生徒が対面形式となるグループワーク等」「近距離で一斉に大きな声で話す活動」
- ・音楽「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- ・家庭・技術・家庭「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」
- ・体育・保健体育「児童生徒が密集する運動」「近距離で組み合ったり接触したりする運動」

◇部活動

上記、授業と同様にリスクに応じて実施。

★実施の際に慎重な検討を要する活動

- ・密集する運動
- ・近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動
- ・向かい合って発声したりする活動

◇給食

衛生管理を徹底と給食の際における下記について指導したうえで、通常の学校給食を提供。

★食事前後の手洗いの徹底。

★飛沫を飛ばさないよう工夫し喫食する。

- ・机を向かい合わせにしない。
- ・大声での会話を控える。

▼本市における学校生活への影響

◇令和2年における臨時休業

- 2月27日～3月25日（実質19日間）
※3/26～4/6までは、学年末・学年始め休業（春休み）のため、実質2/27から新年度の始業式まで臨時休業となりました。
- 4月20日～5月31日（実質26日間）
※5/25～5/29までは分散登校として、全校で午前授業を実施。

◇授業について

- 令和元年度：小学校：95%の達成率，中学校：98%の達成率（※深川中学校はインフルエンザによる学校閉鎖が影響し96%）
- 令和2年度は26日間の臨時休業により、主要教科は100時間超の授業時数不足になるも、11月末にて臨時休業前に回復。（音楽，体育，学級会・児童会活動は回復には至っていない）

◇各種学校行事について

▽運動会・体育大会

- 当初開催日
小学校：6/6（6月第一土曜日），中学校：5/30（5月最終土曜日）
- 開催状況
小学校：9月中旬から10月上旬にかけ、規模縮小により実施。（保護者に公開）
中学校：学年ごとに体育の授業の一環として実施。（保護者には公開せず）

▽学習発表会・学校祭

- 当初開催日
小学校：10/10（多度志小学校は10/17），中学校：9/5
- 開催状況
小学校：10月から11月にかけ、規模縮小により実施。（音江小学校は中止）
中学校：深川中学校は11/27に規模縮小し実施済み。（一已中学校も規模縮小し、12/24に実施予定）

▽修学旅行

- 当初開催日

 - 小学校：8月下旬から9月上旬（行き先は二セコ・札幌方面）

 - 中学校：4月下旬から5月上旬（行き先は東京方面）

- 開催状況

 - 小学校：8月下旬から9月上旬，10月下旬（行き先は二セコ・小樽・登別方面）

 - 中学校：10月下旬から11月上旬（行き先は函館方面）

▼ICT整備（GIGA スクール構想）の進捗状況

◇学習者用タブレットの導入進捗状況

- 学習者用タブレット及び教職員用を2月末までに調達。

- 教職員への研修や運用説明を行い、順次、活用開始。（来年度4月以降の見通し）

◇導入支援の状況

- GIGA スクールサポーターを配置

- 現状把握を行い、年度内に導入に必要な方針やマニュアルなどを作成

◇今後を見据えて：推進校によるICT活用の推進

- 音江小学校に電子黒板と指導者用デジタル教科書（国語、算数、理科、社会）を整備し、活用を図る。

- 電子黒板の有効な活用方法が確認できれば、市内小学校に横展開する予定。

◇課題

- 教職員の育成：研修等を実施

- 教職員のサポート：本年度はGIGA スクールサポーターを活用。来年度はICT支援員を配置したい。

- リモート学習：教職員のノウハウや家庭のWi-Fi環境が必要なことから、今後の課題として対応。

▼学校現場の現状

- ▼児童生徒の健康及び校舎内の管理：健康状態の把握，校舎内の消毒作業，児童生徒が感染者となった場合や保護者への対応。

- ▼授業の改善：授業時数は回復したものの、今後はより理解度を深める授業が必要。

全ての授業において、三つを避けなければならない。